

2012年2月14日

地域の力を活用する～学校支援本部事業を中心として

神戸親和女子大学 洲脇一郎

はじめに

- ・自己紹介
- ・教育委員会の指導主事(人事系、指導系、社会教育系)⇒社会教育系は柔軟な発想も
- ・ある県での体験 地域の力の活用に関心がない⇒学校が困っていない
- ・東日本大震災後の避難所運営⇒「学校支援地域本部を活用するなどして、学校と地域の連携を進めていた被災地の学校では、避難所運営や学校再開にあたって、学校と「地域」との「協働」が見事に実践されていた。」

1 学校運営について、なぜ地域の協力や参加が求められているのか

- 児童生徒に対するきめ細かな指導
- 開かれた学校づくり＝地域連携＝地域とともにある学校づくり
- ボランティア活動の普及

2 学校支援地域本部事業などの認知度(日本全国PTA協議会、2010年)など

	知らなかった	聞いたことがある
学校支援地域本部事業	38.6%	23.4%
放課後子ども教室	45.5%	28.4%
コミュニティ・スクール	91.7%	—
学校関係評価委員	81.2%	—

3 保護者・地域住民による学校運営への参加の制度

- (1)学校評議員
- (2)学校運営協議会
- (3)学校支援地域本部事業
- (4)学校評価(特に学校関係者評価)

4 学校支援地域本部事業

- (1)文部科学省のねらい
- (2)実際の例
  - ①神戸市立だいち小学校
  - ②神戸市立上野中学校

③杉並区立和田中学校

5 学校支援地域本部が成功するための条件

- (1)校長のリーダーシップ
- (2)事業の中核となる地域の人材を見つける
- (3)教職員の理解や参加と多忙化の防止
- (4)学校本来の教育活動の充実が必要
- (5)活動目標の明確化
- (6)ボランティアの確保～できる人が・できる時に・できることを
- (7)予算の確保など教育委員会による支援

6 今後の課題～子どもたちのために

- (1)教員の理解の促進
- (2)ボランティア派遣型の事業の問題
  - ・ミスマッチ(いつまで待っても声がかからない)
  - ・ボランティアの確保(量と質)
- (3)社会教育担当課と学校教育担当課の協働
- (4)学校施設の開放事業、放課後子ども教室、総合型地域スポーツクラブ事業などとの関係

(主な参考文献)

- ・学校運営の改善の在り方等に関する調査研究協力者会議「子どもの豊かな学びを創造し、地域の絆をつなぐ～地域とともにある学校づくりの推進方策～」(2011年7月)
- ・洲脇一郎・大西正展「学校支援地域本部事業と生徒指導・学習指導」(『神戸親和女子大学 児童教育学研究』30号、2011年3月)
- ・日本PTA全国協議会「平成22年度 学校教育改革についての意識調査」(2011年3月)

(資料)

Q1 地域住民や保護者が教育活動その他の学校運営への協力はなぜ求められているのでしょうか。協力を求める学校側の事情と住民等の事情を考えてみてください。

- (1) 学校・教員側の事情
- (2) 住民・保護者側の事情

Q2 各種のアンケート調査では、地域の教育力は低下しているという結果が多いですが、あなたは低下したと考えていますか。

資料1 「学校支援地域本部」の概要（平成23年度文部科学省概算要求資料より）

○取組の経緯

近年、子どもを取り巻く環境が大きく変化するとともに、家庭や地域の教育力が低下しており、未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校、家庭、地域の連携協力を強化し、社会全体の教育力の向上に取り組む必要がある。

○仕組み

学校と地域をつなぐコーディネーターを置き、その連絡調整の下に地域住民がボランティアとして、学習や部活動の支援、環境整備、安全パトロール、学校行事の支援など、学校の教育活動を支援する。

○期待される効果

地域のいろいろな大人が学校の教育活動に関わることで、子どもたちの多様な体験、経験の機会が増え、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながる。また、教員が教育活動により一層力を注ぐことができる。また、地域住民が生涯学習の成果をいかす場が拡がり、自己実現や生きがいづくりにもつながる。そして、地域住民が学校の教育活動に関わることで、地域の絆づくりにつながり、地域の教育力が向上する。

学校評議員制度・学校運営協議会制度・学校支援地域本部の違い

	学校評議員制度	学校運営協議会制度	学校支援地域本部
目的	開かれた学校づくりを一層推進していくため、保護者や地域住民等の意向を反映し、その協力を得るとともに、学校としての説明責任を果たす。	保護者や地域の住民が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することにより、そのニーズを迅速かつ的確に学校運営に反映させ、よりよい教育の実現に取り組む。	地域住民が、学校の支援を行うもので、これにより学校と地域との連携体制の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。
設置	任意設置	任意設置	任意設置
位置付け	校長が、必要に応じて学校運営に関する保護者や地域の方々の意見を聞くための制度。個人として意見を求めるものであるが、実際の運営上は学校評議員が一堂に会して意見を交換し合う機会を設ける例がみられる。	学校の運営について、教育委員会の下部組織として、一定範囲で法的な効果を持つ意思決定を行う合議制の機関である。	地域住民等のボランティアの集まりで任意団体である。
法令上の根拠	「学校教育法施行規則」第49条	「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5	(法的な措置はない)
	平成12年4月1日施行	平成16年9月9日施行	
	学校評議員は設置者の判断により、学校に置くことができる。	教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その指定する学校の運営に関して協議する機関として、当該学校ごとに、学校運営協議会を置くことができるものとする。	

	学校評議員制度	学校運営協議会制度	学校支援地域本部
資格要件等	当該学校の職員以外の者で、教育に関する理解及び識見を有するもの	地域の住民・保護者その他教育委員会が必要と認める者	【地域教育協議会】 ・学校関係者及び地域の代表者(校長や教職員、コーディネーターやボランティア代表、PTA関係者、公民館館長等社会教育関係者、自治会等地域の関係者等)  【地域コーディネーター】 ・学校と地域の実情に精通する者で、ボランティアの活動の連絡調整を行う。  【学校支援ボランティア】 ・学校支援活動に参加する地域住民のボランティア  (法的な措置はないため、特に資格要件等を定めたものはない。)
(任命)	校長が推薦し、設置者が委嘱	教育委員会が任命 *委員の身分は、非常勤特別職の地方公務員	
主な内容	学校評議員は、校長の求めに応じて、学校運営に関する意見を述べる。  学校評議員に意見を求める事項は、校長が判断する。	以下の具体的な権限を有する。 ①学校の運営に関する基本的な方針について承認する。 ②学校の運営に関して教育委員会又は校長に対し、意見を述べるができる。 ③教職員の採用等に関して任命権者に意見を述べることができ、任命権者はこれを尊重する。	学校管理下の教育活動の支援  【例】 学習支援、部活動指導、校内の環境整備、子どもの安全確保、学校行事等の支援
学校数	全国で35,042校 (全公立学校の82.3%) (平成18年8月1日現在) ※類似制度を含む	全国で478校 (平成21年4月1日現在)	全国で2,176本部、 6,494校(20年度実績)

資料2 学校支援地域本部などの実施状況（平成22年度）

学校支援地域本部		学校運営協議会		放課後子ども教室	
市町村数	1,005	市町村数	82	市町村数	1,065
本部数	2,540	指定数	629	実施箇所数	9,280
(実施学校数)	8,557				
	(小中学校)				

- ・思っていたより真面目な様子に驚いた。少しやんちゃな子がいると聞いていたが、講義が始まると一番その子が興味を持ってくれ、他の子を先導してくれてとても助かった（キャリア教育サポーター）
- ・ペンキ塗りの作業は始めてだったが、コーディネーターさん等にご指導いただき、上野中学がきれいな学校に生まれ変わりつつあり、その手伝いができて嬉しく思う（環境整備サポーター）。
- ・先生一人だと手が回らず、分からない生徒はますます分からなくなり、それがやる気のなさにつながっていくと思った（家庭科（調理・被服）サポーター）

資料3 「だいちてらこや」の指導者の保護者への挨拶と児童の感想

○指導者の保護者への挨拶）抜粋

「お子様には、「だいち てらこや」の学習のきまりを渡してありますので、良くお読みくださって、きまりの念押しと準備するものを持たせてください。

また、学習支援ボランティア指導員を広く募集いたしますので、ご協力ください。主婦の方、学生、定年退職者などで指導員にふさわしい方が見つかりましたら教えてください。少しでも子どもたちの要求に応えてきたいと思っています。

あくまでも自主学習の支援ですが、軌道に乗れば多様な企画を入れたいと考えています。まずは、教室での学習の補完が第一と考えておりますので、復習と宿題ができればよしとしています。

○中学年の児童の感想

「てらこや」で宿題がおわって家に帰ったら、すぐ遊べるからよかった。先生に○をつけてくれて、すっきりする。宿題をして、とても家ではらくちんになった。宿題の勉強が早くできていい。

○高学年の児童の感想

勉強が早くできるようになった。もっとがんばりたい。もっと落ち着いてがんばりたい。少数の筆算がゆっくり教えてもらいできるようになった。小数がきらいだったのに今ならすこし好きになった。字がきれいに書けてきた。

Q3 次の問いにどう回答するか考えてみてください。

- (1) ボランティアが来ても、その世話に手がとられあまり役にたたない（学校）。
- (2) ボランティアではなく、教育委員会がきちんと雇った人を派遣するべきだ。特に配慮を要する児童生徒への対応には人的な措置がほしい（学校）。
- (3) 地域住民やPTAに協力してくれる人がいない（校長）。
- (4) 児童生徒のプライバシーが地域に漏れはしないかと心配だ（校長）。
- (5) 地域住民やPTAはもう手一杯であり、学校支援地域本部の事業の手伝いまでできない（地域やPTA）。
- (6) PTAが動かない。自分たちの子どものことなのに「見守り隊」への協力が十分ではない（住民の声）。
- (7) パートの仕事もしているので、何度も学校には行けない（PTA）。
- (8) ボランティアは当てにならない。学生ボランティアも授業で当てにしている来ないことがある（学校）。
- (9) 中学校は生徒指導や学習指導が難しく、地域ボランティアや学生ボランティアでは対応が困難なケースも多い（中学校）。
- (10) 適切でないボランティアは教育委員会で断ってほしい（学校）。
- (11) 図書館でボランティアをしているが、教員は感謝も言わない（ボランティア）。

資料4 上野中学校のサポーターの声

・分からないまま授業を終えないように祈りつつ、呼び止めて質問してくれた時はとてもうれしい。学習のサポーターは先生や生徒をサポートすることで、先生に代わって授業を教えることではない（数学科の授業サポーター）。

・この地域に住むようになってもうすぐ4年になる。住みよい街づくり、次代を担う子どもたちに何かできないかと思い、このプロジェクトに参加した。時折尋ねる学校で、子どもたちの清々しい笑顔を見ると嬉しくなる（行事サポーター）。

(8) 「学校支援地域本部事業」についてお聞きます。

① 「学校支援地域本部事業」を知っていたか

問19 「学校支援地域本部事業」の取り組みをあなたは知っていましたか。(○は1つだけ)

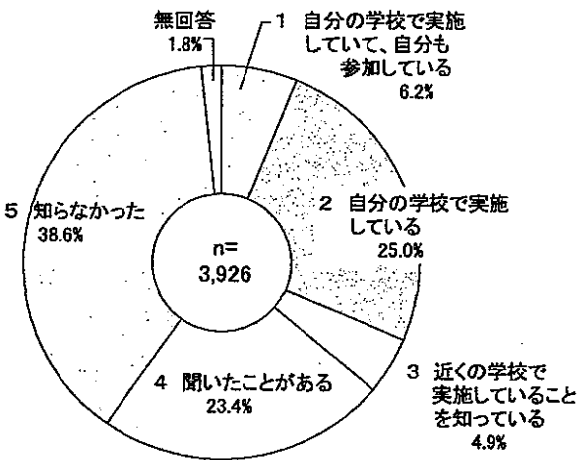
※平成20年度より、文部科学省生涯学習政策局において「学校支援地域本部事業」を実施しています。

「学校支援地域本部事業」とは、学校の求めに応じて、保護者や地域住民の方々がボランティアとして、学校の教育活動などを支援していく取り組みのことです。

学校支援地域本部は、地域によっては「学校応援団」や「学校支援センター」などと呼ばれており、学校の求めと保護者や地域住民の力を結びつける地域コーディネーターが、学校とボランティア、またはボランティア間の調整を行い、地域ぐるみでより効果的な学校支援を行えるよう活動しています。

授業や部活動の指導の補助、花壇や植え込みの手入れ、本の読み聞かせ、安全パトロールなど、様々な取り組みが、多くのボランティアの参加により全国各地の学校で行われています。

〔「学校支援地域本部事業」の認知度<保護者全体>〕



〔「学校支援地域本部事業」の認知度<小学生、中学生の保護者別>〕

- 1 自分の学校で実施している、自分も参加している
- 2 自分の学校で実施している
- 3 近くの学校で実施していることを知っている
- 4 聞いたことがある
- 5 知らなかった
- 無回答

保護者	1	2	3	4	5	無回答	(%)	サンプル数
小学5年生の保護者	6.2	30.4	1.7	21.7	37.8	2.4	1,967	
中学2年生の保護者	6.3	19.7	8.2	25.2	39.7	1.1	1,959	

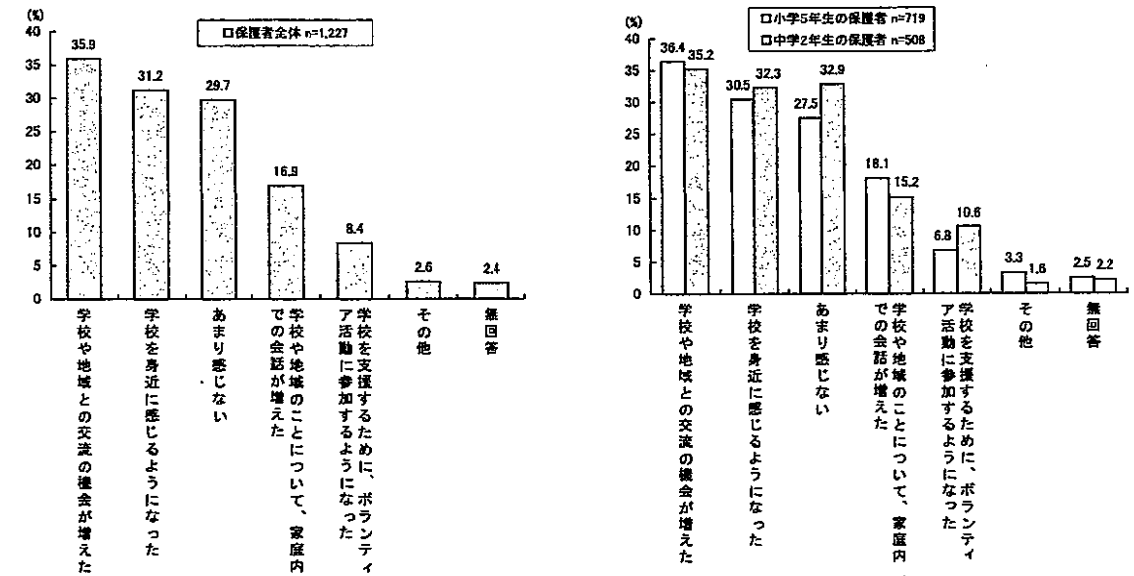
付問19-1 【問19で「1」か「2」と答えた方にお聞きます】

あなたの学校の学校支援地域本部事業を通して、あなたやあなたの子どもにどのような変化や効果を感じていますか。(④⑤とも○はいくつでも)

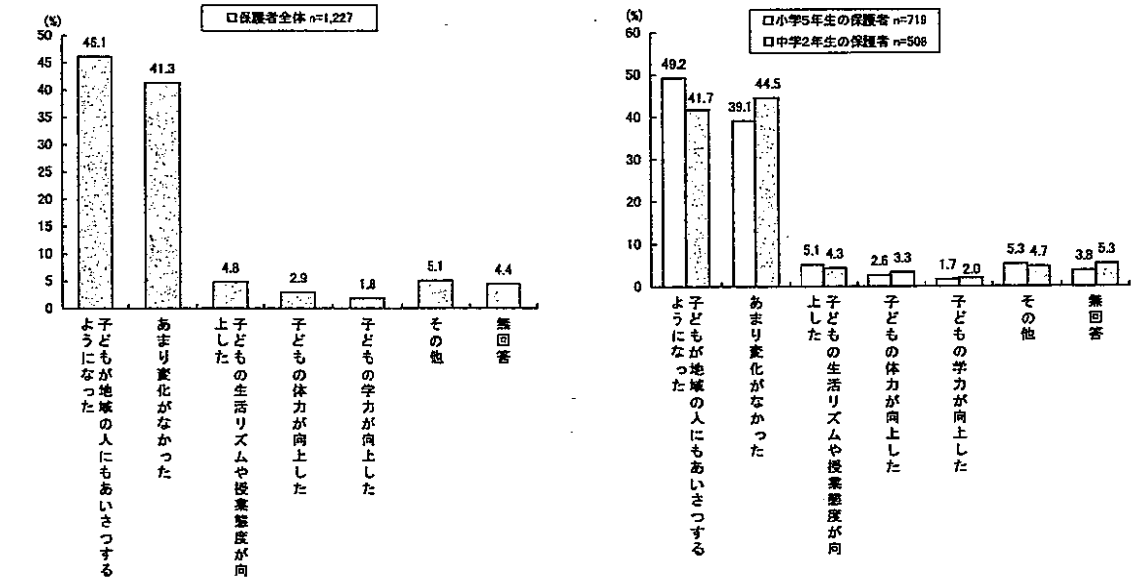
④【主に、あなたやあなたの回りのことについて】

⑤【主に、あなたの子どものことについて】

〔④学校支援地域本部事業を通して、主にあなたやあなたの回りのことについて〕



〔⑤学校支援地域本部事業を通して、あなたの子どものことについて〕



## だいち小・太田中学校支援地域本部

- ◎事業開始 平成20年度より
- ◎対象学校 だいち小学校・太田中学校
- ◎構成 だいち小・太田中学校区子どもを守る会  
(ふれまち協・自治会連合・民児協・青少協・防災福祉コミュニティほか)  
だいち小PTA・太田中PTA
- ◎コーディネーター 岩田正幸

### 【地域本部の紹介】

- 小学校2校の統合により誕生した学校で、校区が長田区と須磨区にまたがっている。地域ぐるみで子どもたちの登下校の見守り活動をしようということで立ち上げた「子どもを守る会（地域の各種団体で構成）」が母体となって本事業を推進している。
- 下町風情が残り、地域の学校に対する思いは格別である。「子どものため」という目的で集い、各団体が協力して活動することで、学校や本事業が住民をつなぐ場としての役割も果たしている。

### 【活動内容】

- ◆学習支援ボランティア……だいちてらこや・ゲストティーチャー・調理実習補助(中学校)
- ◆安全確保ボランティア……登下校の見守り・行事でのパトロール・文化祭展示監督(中学校)
- ◆環境整備ボランティア……学校周辺の清掃(月1回)・プランターの花の植え替え
- ◆だいちタイムボランティア……クラブ活動支援(グラウンドゴルフ・マジック等)
- ◆合同行事ボランティア……1・17防災集会・だいちまつり  
ふれあいコンサート・校区内クリーン作戦(小中連携行事)



↑登下校の見守り



↑だいちてらこや



↑校区内クリーン作戦



↑だいちまつりの支援



↑七輪の会(ゲストティーチャー)



↑学校支援地域本部総会

### 【特色ある取組】

#### だいちてらこや(だいち小)

年度当初に参加者を募集し、宿題や本読みなど、放課後の自主学習を支援している。子どもたちに学ぶ楽しさを伝えるとともに、基礎的な学習習慣と生活習慣の確立を願って取り組んでいる。

- 内容：宿題、本読み、予習・復習用の学習プリント
- 実施日：毎週火曜日・金曜日の放課後
- 参加者：2年生～6年生 147人(平成22年度)
- ボランティア：民生児童委員・PTA役員OB・教員OB  
教員志望の大学生・グループ「わ」の方々



#### だいち防災デー「1・17集会」(だいち小)

校区全域が震災により、多くの犠牲者を出し、その鎮魂と教訓を受け継いでいくために、校区にある3つの防災福祉コミュニティが中心となって学校と連携を取りながら、計画・実施している。

- プログラム <学校公開デーと兼ねて>
- 1校時：担任による震災・防災学習
- 2校時：地域の方から学ぶ震災・防災学習
- 3校時：避難訓練と防災集会(復興の記録)
- 4校時：炊き出し訓練



#### <支援内容>

- ・震災体験・復興の様子(語り部)
- ・訓練支援(バケツリレー・毛布担架・消火器訓練など)
- ・炊き出し支援

#### 調理実習補助(太田中)

家庭科の調理実習補助としてボランティアを募集した。地域からのボランティアだけでなく、小中連携の一環として、だいち小学校の教員も参加した。各学級への支援は、のべ60名になった。

活動内容は、包丁の持ち方などの安全面での補助や、調理のアドバイスである。中学生とかかわるボランティア活動を今後も充実させていきたい。



#### ありがとうの会(だいち小・太田中)

見守る会の方々をはじめ、学校を支援してくださったボランティアを招待して、毎年2月に実施。

学習の成果を披露したり、感謝状を贈ったりすることで一年間のお礼の気持ちを表す会である。地域の方も毎年楽しみにして、参加して下さっている。





## 上野中学校支援地域本部（うえのプロジェクト）

- ◎事業開始 平成21年度より
- ◎対象学校 上野中学校
- ◎構成 うえのプロジェクト推進委員会・ふれまち協・青少協・民児協・灘区役所  
学校評議員・学校施設開放・上野中同窓会・保護司会・上野中PTA
- ◎コーディネーター 能仁章夫 伊澤のり子 田宮哲哉 大久保三栄子  
大前 薫 住田美智恵

### 【地域本部の紹介】

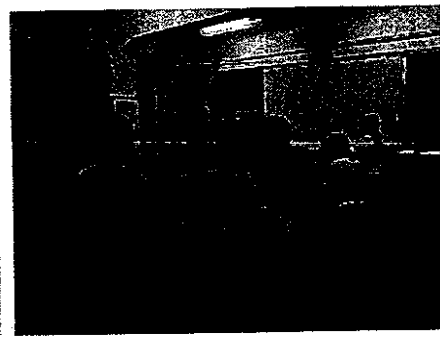
- 中学校単独の支援本部。学校経営の一つの柱として、組織的な運営体制を整え、活発な支援活動が実践されている。
- 支援内容毎に6つのサポート部会を設置することで、円滑な支援活動が実現している。
- 創立60周年を迎え、地域在住の卒業生も多く、学校に対する愛着も強い。また、幅広い職種や、様々な分野での技能、資格を持った方が多く住んでいる。
- 基金を設立し、自主財源を確保することで、継続的な支援活動に取り組む。

### 【活動内容】

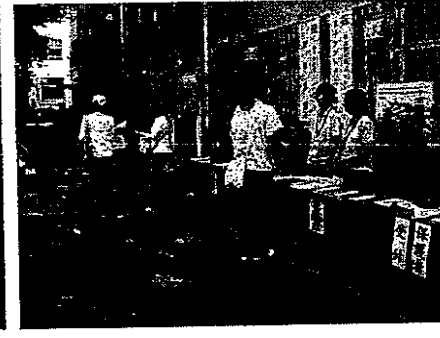
- ◆学習サポート……授業支援（数・理・英・家・書写の授業補助）
- ◆キャリア教育サポート……「うえのエキスパート」（職業についての実演・講話）
- ◆環境整備サポート……環境整備支援（花壇の手入れ・ペンキ塗り）
- ◆部活動サポート……部活動支援（男・女卓球部）
- ◆あいさつ運動サポート……朝のあいさつ運動支援（校区内6か所でのあいさつ運動）
- ◆行事サポート……諸行事の支援（体育大会や文化祭の写真・ビデオ撮影 受付補助）



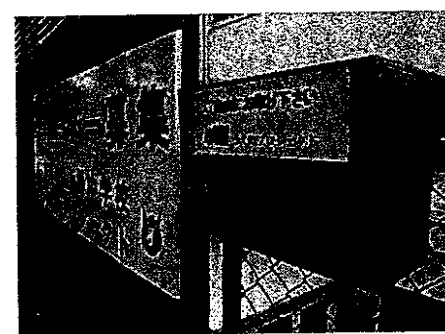
↑手すりの塗装（環境整備）



↑部活動の支援



↑体育会の受付



↑隣接するバス停で支援員募集の案内



↑数学の授業支援



↑朝のあいさつ運動

### 【特色ある取組】

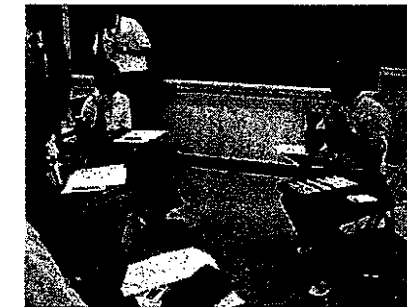
#### うえのエキスパート（キャリア学習）

校区在住の様々な分野で活躍されているその道の「達人」の方々を講師に迎え、2年生が働くことの意味や仕事について学んでいく取組である。いわば、地域で学ぶ「キャリア学習」である。

- 実施日：7月7日(木) 13:25～15:25
- 方法：ワークショップ方式で生徒が希望する職業（事前に調整）を体験した。
- 場所：2年生各教室・特別教室
- ボランティアの数：17講座・講師数22名
- 当日まで：  
講師の募集……コーディネーター・学校長より依頼  
講師との事前の打ち合わせ（3回）

#### <講座内容>

- ・木工・木彫・製靴・製財布
- ・フラワーコーディネーター
- ・製畳・箏・三弦・美容
- ・造園・眼鏡・貴金属
- ・洋菓子・和菓子・珈琲
- ・寿司・一級建築士・保育士
- ・薬剤師・税理士・弁護士



#### ■活動を振り返って

講師が地域の方であることに意義がある。講師からも「楽しく活動できた」と、来年度以降の継続を望む声も多い。打ち合わせの内容と時間の確保が課題として挙げられる。

#### 【上野中学校2年生でのキャリア学習】

- ◀1学期：うえのエキスパート▶
- ◀夏休み：職業調べ▶
- ◀2学期：トライやるウィーク▶  
と連続する中でキャリア教育を推進する

#### 環境整備サポート

学校内外の環境整備を続けることで、目に見えて教育環境が整ってきた。特に、玄関周辺の整備を行うことにより、学校を訪れる人や地域の方々はその変化に驚いている。また、校内が美しくなるに比例して、生徒の心の安定にもつながっている。

- ボランティア登録者数：27名
- 活動日：毎週水曜日の午後
- 内容：プール壁面・階段・手すり塗装  
バスケットボード・サッカーゴール塗装  
部室と周辺の塗装  
花壇の整地と苗の植え付け



#### ■新たな活動：

生徒会が「花壇プロジェクト」を立ち上げ、月曜日の昼休み、生徒のボランティアによる花壇の美化活動を行っている。地域の方と生徒との「協働と共汗」をめざしている。